令和元年度　北海道観光振興機構　広域観光推進事業　成果報告会

摩周･鶴居　台湾友好観光推進事業

令和2年3月

くしろサイクルツーリズム推進協議会
事務局長　服部　政人

1
Keyword

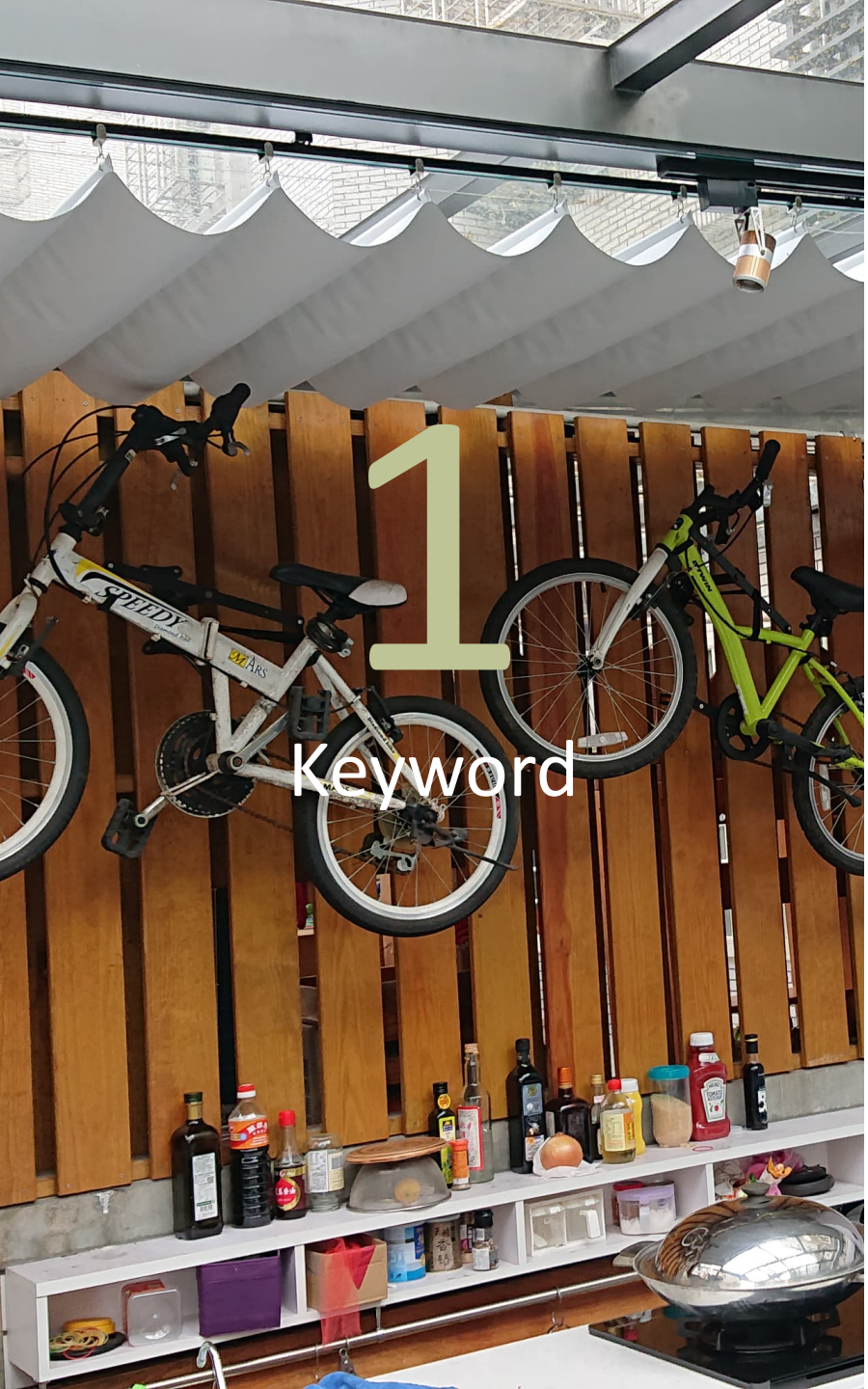
「台湾・友好交流」

2
Action

「今年度の取り組み」

3
Plan

「今後の展開」



1

Keyword

「台湾・友好交流」

平成30年　摩周湖観光協会及び
鶴居村観光協会は、
中華民国自行車騎士協会と
「友好交流及び観光推進連携協
力に関する協定書」を締結。
観光地域資源を活かし、
双方の友好交流の発展へ
つなげていく。

2

Action

今年度の取り組み

- 「グランフォンド摩周」へ台湾関係者を招聘
- 台湾日月潭サイクルイベント参加
- 民間協力「台湾オフィス」開設
- 台湾のテレビ局が取材
- サイクリストの聖地「しまなみ街道」視察
- 瀬戸内「摩周・鶴居アンテナショップ」開設

2 Action 「グランフォンド摩周」へ台湾関係者を招聘

路新聞

（第三種郵便物認可）

弟子屈で行われた歓迎セレモニー

台湾からの自転車観光呼び込め

弟子屈、鶴居の協会が交流

【弟子屈、鶴居】自転車を観光に活用するサイクルツーリズムを通し、台湾との観光交流が活発化している。昨年11月に弟子屈町の摩周湖観光協会（中嶋康雄会長）とNPO法人「美しい村・鶴居村観光協会（和田正幸理事長）が、台湾のサイクリング協会「中華民国自行車騎士協会」と観光振興などに関する連携協定を締結した。今年も台湾から自然や食を満喫するサイクリングイベント「グランフォンド摩周」に選手が出場し、大会終了後は両協会の関係者と交流を深めた。相互交流の一環として、11月には台湾側のイベントにも参加する。（戸田英吾）

両協会の愛好者参加

サイクリングが盛んな台湾は競技人口も多く、愛好者の誘致を進めた結果、昨年の大会から台湾側が選手を派遣。これを契機に観光、産業、文化交流をさらに推進するため、連携協定を締結した。1、2の両日に開かれた今年の大会には台湾から14選手が参加し、弟子屈、鶴居でそれぞれ歓迎セレモニーなどが行われた。

弟子屈町では2日夕、川湯観光ホテルで歓迎会が開かれた。中嶋会長、徳永哲雄町長が「さらなる信頼関係を築きたい。疲れた体を温泉で癒やしてほしい」などと歓迎あいさつ。伝統芸能・川湯ばやしなどで歓待し、台湾協会の林徳和副秘書長は「私にとって道東エリアは憧れの場所。素晴らしい景色に魅了された。参加者に弟子屈の素晴らしさを広めてもらい、訪れる人を増やしたい」と交流推進に意欲を示した。

一方、鶴居村では3日に「レストラン「ハートンツリー」で歓迎セレモニーを行い、和田理事長や大口正行村長ら地元関係者と交流を深め合った。滞在中は電動アシスト自転車に乗って村内を散策。村内の自然を満喫し、草原でタンチョウも観察した。

地場産品も人気を集め、お土産としてナチュラルチーズなどをたくさん買い込んだという。11月には台湾中部の湖、日月潭で開かれるサイクリングイベントに両協会から愛好者を派遣する予定で、鶴居村観光協会は「今後は物産交流なども拡大していきたい」と意気込んでいる。

鶴居村内で自然を満喫しながらサイクリングを楽しむ台湾からの参加者

景観楽しみ 銀輪疾走

弟子屈 摩周湖などでイベント

【弟子屈】雄大な自然や地場産品を満喫するサイクリングイベント第7回「グランフォンド摩周」（実行委員会主催）が1、2の両日、町内などで開かれた。道内外から約220人の愛好者が出場し、摩周湖や屈斜路湖など道東の景観を楽しみながら、広々とした草原や森林の中を疾走した。

全国のサイクリング愛好者に道東の素晴らしい景色や食材をPRするため、毎年開かれている大会。レース形式ではなく、サイクリングを思い思いに楽しみ、チェックポイントでは摩周そばなどの地元グルメも存分に味わう。

昨年から交流が始まった台湾のサイクリング愛好者14人も参加した。初日は体慣らしの「サイクリングツアー」として、起伏のある津別峠周辺の80キロ、平坦な屈斜路湖周辺の60キロの2コース、2日目は60キロのショート、100キロのミドル、130キロのロングの3コースをそれぞれ走行した。

参加者は摩周湖や硫黄山、標茶町の多和平などの絶景を楽しみながら、青空の下、軽快にペダルをこいでいた。（戸田英吾）

多和平周辺の草原を疾走する参加者

道東の絶景ポイントをサイクルで巡る2日間

2 Action

「グランフォンド摩周」へ台湾関係者を招聘

恒例事業として定着

2 Action

台湾日月潭サイクルイベント参加

オープニングセレモニー&スタートの立会

弟子屈町
鶴居村
首長による
友好PR

2

Action

台湾日月潭サイクルイベント参加

イベント会場にて観光PR
台湾のサイクリストと交流

2

Action

鶴居村民間会社による台湾オフィス開設

道東観光の発信拠点に

台湾の人たちと
直接会って
魅力を発信

2 Action 鶴居村民間会社による台湾オフィス開設

釧路新聞 SENSHIN

（昭和31年2月1日 第三種郵便物認可） 第25159号 【日刊】

丘の上のわくわくカンパニー

台湾オフィス開設

鶴居の魅力、観光情報発信

【鶴居】村内でファームレストラン「ハートンツリー」などを運営する丘の上のわくわくカンパニー（服部佐知子代表取締役）がこのほど、鶴居の魅力や観光情報の発信拠点として台湾オフィスを開設した。行政や観光協会などの関連機関を介さず、大企業とも違う海外進出スタイルは注目されそうだ。服部代表取締役は「インターネットと違い、台湾の人たちと直接会って鶴居を紹介できる。多くの利用に期待したい」と話している。（河辺由記子）

同社の台湾オフィスは今年6月、台北市で貿易や観光、イベント企画などを手掛ける現地企業に業務委託し開設。日本人と台湾人のスタッフが対応する。同社のレストランや体験工房、ゲストハウスの受け付けなどをはじめ、鶴居や北海道の観光情報を紹介。繁体字と日本語で新たにホームページも立ち上げる。

同社は今年5月に台北で開かれた観光博覧会に道内の民間企業数社とともに参加。コーディネーターを務めた現地企業の代表の勧めがあり、オフィス開設が実現した。7月末には服部代表取締役が訪台し、現地で初めて交流会を開催。台湾では趣味のサークルや団体、愛好家らが気軽に集まるイベントや交流会が盛んで、今回の交流会はハートンツリーファンだけではなく「鶴居」や「北海道」をキーワードに参加者が約50人集い、親睦を深めた。

ハートンツリーは1999年に開店し、2014年に法人化。2000年からは、海外青年ボランティア（WWOOF）を積極的に受け入れている。服部代表取締役が〝家族〟と呼ぶ各国のボランティアは、これまでで延べ約900人。中にはブロガーもおり、インターネット交流サイト（SNS）などで滞在時の経験談などを発信し、年々来訪者が増加している。

台湾オフィス前で服部代表取締役（右）と現地スタッフ（丘の上のわくわくカンパニー提供）

町村・協会・民間ユニットによる台湾アプローチに期待！

2

Action

サイクリストの聖地「しまなみ街道」視察

新たな連携を模索

台湾から近く
サイクリスト・旅行客が多い

2

Action

サイクリストの聖地「しまなみ街道」視察

折りたたみ自転車
ポタリングの
可能性を発見

2 Action

台湾のwebメディアで情報発信

台湾メディアから高い注目度

（第三種郵便物認可）　金川　路

台湾メディア 冬の道東満喫

釧路市視察事業　夕日やスキーなど体験

釧路市は、台湾で人気を誇るウェブメディア2社を招いた視察事業を16日から行い、担当者が釧路湿原の散策や阿寒湖でのワカサギ釣りといったアクティビティを体験するなど、冬の東北海道の魅力を満喫した。（高田華）

道運輸局の補助事業「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」を活用し、冬季の誘客促進として行った。

来釧したのは、台湾や香港の訪日情報ウェブメディアで最大規模を誇るという旅行情報サイト「樂吃購（ラーチーゴー）！日本」の記者1人と、台湾人の9割がアカウントを持つというフェイスブック（FB）で16万人ものユーザーが支持するFBグループ「北海道旅遊情報」の管理者1人、事業を受託したデイリーインフォメーション北海道の通訳ら。

一行は16日来釧。17日に釧路湿原でスノーシュー（西洋かんじき）をはいて自然散策を楽しんだほか、阿寒国際ツルセンターでタンチョウを見物。遊覧船に乗り、世界三大夕日と呼ばれる釧路の夕日を楽しんだ。

18日には弟子屈町川湯温泉の釧路川源流部でカヌー。硫黄山や砂湯といった観光スポットを巡った後、阿寒湖温泉のアイヌシアタ―で新プログラム「ロストカムイ」を鑑賞した。

19日には、ファットバイクと呼ばれる冬でも楽しめる自転車で阿寒湖周辺を散策。スキーやワカサギ釣りなどを堪能。20日には早朝のツアーに参加したほか、鶴居村で昼食を味わった後、離釧した。

旅遊情報のフー・チーリンさんは「湿原や植物の生態を学ぶことができ満足した。秋に遊覧船に乗ってタ日を見たことがあるが、今回の方が美しかった」。ラーチーゴーのイエ・ペインさんは「台湾では雪を見ることがなく、さらさらしていて興奮した。雪の上に動物の足跡があり、とてもわくわくした。夕日はとても感動しました」などと感想を語っていた。

阿寒国際ツルセンターで河瀬幸館長の説明に笑顔を見せる台湾の２人（左から）

台湾で人気の訪日情報webメディア&Facebookにて魅力発信

2 Action 台湾の人気インフルエンサーによる観光PR

新聞　（第三種郵便物認可）

観光地を折り畳み自転車で

台湾のモデル 名所巡る

鶴居、摩周の協会が招き

【鶴居、弟子屈】台湾との観光交流でNPO法人「美しい村・鶴居村観光協会」（和田正宏理事長）と摩周湖観光協会（中嶋康雄会長）は、折り畳み自転車で観光名所周辺を散策する新たなサイクルツーリズムの推進を試みている。台湾で影響力の大きい人気インフルエンサーを招き、情報発信を強化するなど、自転車愛好者以外の集客強化で滞在型観光の促進を目指す。（戸田英吾）

自転車を活用したサイクルツーリズムを推進するため、昨年11月に両協会はサイクリングが盛んな台湾の「中華民国自行車騎士協会」と観光交流に関する連携を協定。双方のサイクリングイベントに自転車愛好者が参加し合うなど、交流が活発化している。

普段、サイクリングに親しみがない人たちにも鶴居や弟子屈に足を運んでもらうため、車に積んだ折り畳み自転車を活用するツアーを考案した。気に入った場所で車から自転車に乗り換え、大自然の中で気ままに散策を楽しむ。

今回は摩周・鶴居台湾友好観光推進協議会事業として、台湾でモデルなどとして活動する傍ら、インフルエンサーとしても活躍するsheepさん（21）を招き、モニターツアーを実施した。

今月中旬の2日間、弟子屈の摩周湖や硫黄山など観光名所周辺を巡り、鶴居の市街地や上幌呂の農道などで散策を満喫した。鶴居ではナチュラルチーズなどの特産品を販売するつるぼーの家などに立ち寄った。

インスタグラムなど、インターネット交流サイト（SNS）でsheepさんのフォロワー数は約5万人に及び「どこにでも行けて楽しい。美しくリラックスできる場所なので、台湾の人もきっと来たいと思うはず。情報発信したい」と集客に期待を込めた。

同協議会は「今後も人気インフルエンサーを招いて情報発信し、折り畳み自転車の活用を事業化していきたい」と話している。

観光名所を折り畳み自転車で巡ったsheepさん

摩周・鶴居を折り畳み自転車で観光

2 Action

瀬戸内「摩周・鶴居アンテナショップ」開設

ステッカー・ポストカード配布

サイクルツーリズムDVD放映

2 Action 瀬戸内「摩周・鶴居アンテナショップ」開設

「台湾～しまなみ～摩周・鶴居」サークルツーリズム

サイクリストにとって・・・

「夏は鶴居&摩周」「冬は瀬戸内」が最適な環境

3

Plan

今後の展開

自転車を趣味としていない人でも楽しめる
観光サービスの提供

↓

- 台湾向け
  ポタリングツアー造成
- 折りたたみ自転車
  レンタサイクル展開

3 Plan 自転車を趣味としていない人でも楽しめる観光サービスの提供

- 「台湾オフィス」の活用
  → 現地で着地型観光のPR
- 「折りたたみ自転車ポタリング」
  →車＋自転車の旅の提案
- 「しまなみ街道～摩周・鶴居～ひがし北海道へ
  →友好連携で観光客のシェア
- 「アンテナショップ」をひがし北海道ベクトルへ
  →摩周・鶴居の特産品販売

Fun cycling
BROMPTON